

教育方針		「磨き合い 共に輝け 二階堂」をスローガンに、「キャリアデザイン科」の特色を生かし、社会の中で自らが果たす役割や生き方を見つけ、地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成を目指したキャリア教育を推進する。					総合評価
平成28年度の成果と課題		本年度の重点目標		具体的目標			B
平成28年度はキャリアデザイン科2年目となり、幅広い選択科目やインターンシップ等の取組をはじめとしてキャリア教育の充実が見られた。また先生方のきめ細かな指導もあり、問題行動による指導件数、遅刻数ともに減少している。平成29年度に3学年そろってキャリアデザイン科となることを踏まえ、すべての教育活動において社会人基礎力の育成を中心としたキャリア教育に、全員で取り組んでいく。		(1)一人一人の個性と能力、可能性を伸ばすキャリア教育の推進		①学力の向上（質の高い授業・BUTによる基礎学力の充実・積極的な資格、検定の取得）。 ②「産業社会と人間」、「かがやき（課題研究）」による、キャリアプランニング能力の育成。 ③進路説明会や系列選択ガイダンス、進路面談等により、進路選択のミスマッチの防止。 ④部活動や生徒会活動、学校行事を通して、主体性と協調性を持った生徒の育成。			
		(2)自他の生命を尊重する心と礼節を重んじる態度の育成		①爽やかな挨拶、美しい言葉遣いと身だしなみ、マナーの向上に努める。 ②積極的、自主的な清掃活動を通して、公共心や感謝の心を育む。 ③ボランティア活動を推進し、地域との連携を図り、地域社会に貢献する。 ④高等養護学校分教室との交流を推進し、社会性、多様性を尊重する心を育む。			
		(3)教職員一人一人が協力して教育力の向上を目指す学校運営		①指導力向上に向け、評価と指導の一体化、アクティブラーニング、ICTの活用を進める。 ②保護者や地域との連携・交流の強化のため、積極的に情報発信と情報公開を行う。 ③学年、分掌、事務室が情報を共有し、連携・協働を一層進める。 ④教育活動の充実のため、施設・設備の整備を進める。			
分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価 結果※	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
学習	学力の向上	・BUTの実施により基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指す。 ・資格・検定の積極的受検により能動的な学習習慣を身につける。		B	B BUT学びの地図の作成により学習内容の位置づけを明確にした。 指導力の向上に向け校内研修を実施し、職員全体での共通理解を図った。今後も継続した取り組みが必要となる。授業評価で「興味や関心がわき、もっと学びたいと思うような授業」 GPA 2.9	教科の枠を超えた連携を密にするとともに、新学習指導要領を先取りした授業改善に取り組む生徒の学力・教員の指導力向上に努める。	授業の様子等から先生方の熱意を感じる、より一層の工夫で学力向上につなげてほしい。
	教科指導力の向上	・指導力の向上に向け、評価と指導の一体化、アクティブラーニング型授業の導入、ICTの活用を進める。 ・生徒が「わくわくする授業」の実践。授業評価で「興味や関心がわき、もっと学びたいと思うような授業」のGPA3.4以上。		B			
生活 指導	規範意識の向上	・挨拶の励行、正しい言葉遣いを推進し、粘り強く指導をすることによってルールやマナーを守れる素地をつくる。 ・問題行動の昨年度比10%減少とマナーの向上を実現する。		B	B 積極的に挨拶の出来る生徒が増えてきた。問題行動で特別指導を受ける生徒数は昨年度より49%減少した。 遅刻指導の方法を見直した結果、遅刻総数は昨年度5229回から今年度3345回へと減少し、36%減となった。服装等の指導においては学年集会の時間を十分に確保できず、統一を図れなかった。 家庭訪問の実施は生徒の状況把握に役立ったが、入学直後の指導を充実させるために家庭訪問に代わる方法について検討の必要がある。	入学直後の指導に役立っているために中学校訪問を実施する。また、生徒の状況の変化、社会状況の変化に対応した指導方法等の検討を行う。	問題行動や遅刻数が大幅に減少し、全体の雰囲気も落ち着いてきた。校外でも、挨拶の出来る生徒が増え、乗車マナーも向上している。
	基本的生活習慣の確立	・時間を大切に指導を徹底し、けじめある行動を心がける。遅刻指導の方法を見直し、遅刻の数を昨年度比10%減を目標とする。 ・学年集会等を利用して、服装・頭髪等の身だしなみの指導を行う。		B			
	生徒理解と家庭との連携	・第1学年において期間を定めて、家庭訪問を実施する。 ・報告・連絡を徹底して、生徒情報の共有化を図る。		B			
情操 指導	読書の定着と充実	・BUTの読書期間中のお薦め本のリストを作成、各クラスの学級文庫の充実。 ・図書委員会活動を活発にする。(読書会やお薦め本のリストやポスター作成を生徒主導で行う)		A	A リストやポスターを作成した。昨年に引き続き、分教室も含めたイベント、図書委員会の活動を活発にした。 内容を精査し、生徒の実態に合わせた上で、より充実した内容の企画が必要である。 清掃点検の点検率80%。保護者アンケート「学校の環境美化、清掃が十分に出来ている」GPA3.4で過去最高値。 トイレ掃除ボランティアは2月現在で11回実施、延べ200人の生徒が参加している。通学路清掃は概ね計画通り実施した。	芸術鑑賞会を文化祭から独立させ、内容の充実も図る。クリーンキャンペーンやトイレ掃除ボランティアの取組は生徒への周知を徹底し、参加数増を目指す。	新しい行事や取組が次々と実施されていて、今後が楽しみである。地域と連携した活動を今後も継続し、一層活性化されることを望む。
	文化行事の充実	・芸術鑑賞会の充実を図る。情操教育の充実。生徒参加型にする。		B			
	環境美化意識の向上	・クリーンキャンペーンを通して環境美化の啓発に努める。 ・清掃点検を徹底して一層の美化を推進する。(点検率100%)		B			
	奉仕精神と勤労観の育成	・生徒会のボランティア活動の充実。トイレ清掃ボランティア活動を継続、年6回以上の実施と参加延べ生徒数200名以上。 ・各クラス年1回の通学路清掃の実施。		A			
健康 管理	生徒の体力の向上と健康維持	・運動部への加入率をあげ、活動が継続できることを目指す。昨年度比10%増。 ・体育授業での体力作りの種目を計画し運動量を増やす。 ・新体力テストの校内平均を奈良県の平均まで引き上げる。		C B	B 授業で体力向上の取り組みを行っているが、新体力テストの結果向上にはつながっていない。運動部員が少ないことが大きな要因である。新体力テスト、運動部への加入率とも昨年度並みであった。 朝食の欠食などの課題がはっきりしているが、改善する対策が不十分である。	運動することを習慣化し、体力を向上するために、体育の授業だけでなく、運動部活動の加入率を上げる取組を行う。	部活動の活性化を通して、生徒の体力向上をお願いしたい。
	食育の充実	・生徒及び保護者への講演会やアンケートの実施。 ・保健だより(毎月発行)とアンケート集約の活用。		B			

※ 自己評価結果について … A：十分である（よくできた） B：ほぼ十分である（ほぼできた） C：あまり十分でない（あまりできなかった） D：改善を要する（できなかった）

分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果※	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方法
進路指導	進路目標の明確化と進路実現	・サクセスセミナーの内容を充実させ、生徒が具体的目標を持って行動につなげることができるようにする。出席者数については80%以上を目標とする。	C	内容の充実を図り、参加生徒には充実した情報提供や指示指導ができたが、参加率向上にはつながらなかった。参加率51%。指導体制を整備し、もちかたを工夫することで、参加率を向上させたい。 就職内定者への集会を定期的にもち、社会人に向けての意識付けを一層強めることができた。また、進学決定者に対しても効果的な指導を行うことができた。参加率100%。	「進路意識の高揚」を共有課題として捉え、進路担当者や担任等による直接指導だけでなく、授業や部活動、生徒指導の面からも指導を図る。進路決定者への指導は今後も継続し、追跡調査実施も検討する。	生徒の進学や就職先が変わってきている。各取組が、より効果的なものとなるよう、更なる改善・充実を図ってほしい。
	卒業後に要する知識・技能・態度の育成	・新生活へのスムーズな移行の支援として、学校推薦による就職内定者や大学合格者に対し、定期的にセミナーを実施する。該当者の90%以上の参加を目標とする。	A			
地域・保護者との連携	学校関係者との連携	・PTA活動への保護者の参加を促進する。(参加者数10%増) ・学校評議員からのアドバイスを学校運営に活かす。	B	保護者の参加数は昨年度とほぼ同じ。学校評議員のアドバイスは随所に取り入れられている。 回収率86.5%。ほとんどの項目で数値が上昇。 HPの更新回数が昨年度より若干減少したものの、GPA2.2で昨年度より上昇した。奈良県教育週間への参加者延べ825人で昨年並みであった。	保護者への連絡や案内等について、ホームページ等を活用した更なる広報の充実に努める。	PTAの諸活動がとても活発である。さらなる広報の充実に努めてほしい
	学校評価制度の活用と充実	・各種アンケートを実施・分析して、学校改善に反映させる。保護者アンケート回収率90%以上。	B			
	開かれた学校づくり	・学校ホームページの充実。保護者アンケートにおいて「本校のHPをよく見ている」のGPA2.5以上。 ・学校開放・地域交流の推進。奈良県教育週間への参加率昨年度比10%増。	C			
防災	安全教育・防災体制の充実	・避難訓練の実施と防災教育の充実。	B	回数は減ったが、昨年度並みの内容で行えた。	引き続き実施機会を確保	継続した取組を
人権・特別支援教育	生徒の人権尊重の意識の確立	・社会人としての姿勢を養う人権教育ホームルームの創造を図る。 ・人権系の活動を充実させ、人権尊重の意識を高める。	B	公開HRを含め多様な課題の展開はできた。 人権作文発表会の準備運営には取り組めた。 個々の生徒の課題を受け止め、対応を協議し、実践を模索し続けた。分教室との協働も年間を通して推進できた。	人権HRの事前事後の指導や職員研修をもつようにする。分教室との合同授業の取組をより一層進める。	新聞記事等からも、学校全体としての交流が活発化していることがうかがえる。
	要支援生徒の把握と教育相談の充実	・生徒の様々な悩みを受け止め、子どもたちの自立や社会参加につながる解決策を組織的に考える教育相談・特別支援教育の体制を確立する。高等養護学校分教室の生徒との協働を推進する。	B			
国際理解教育	外国人生徒の支援体制の充実	・国際交流研究会の活動を活性化させ、多文化共生社会に対する意識を高める。	B	県外教在日外国人生徒交流会に参加し、勾玉祭で朝鮮のチヂミを販売し、校内集会ももった。	校内外での活動を一層活性化させる。	
研究研修	各種校内研修の実施	・特別支援教育の充実に向け、関係機関との連携を強化し、校内研修会を実施する。一人一人の教育的ニーズの把握に努める。	B	スクールカウンセラーを講師に、職員研修会を実施し、適宜ケース会議をもった。	毎月第4週に職員研修をもつなど研修機会の充実を図る。	若手教員も多いので、更なる研修の機会を。
		・教科を超えた授業公開・研究の実施。(延べ参加人数昨年度比10%増)	B	6月に教科を超えた授業公開・研究を実施した。延べ参加人数は16%増となった。		
第1学年	基本的な生活習慣の確立・規範意識の向上	・欠席・遅刻への意識を高め、きっちりとした身なりができること。生徒との会話を増やし、信頼関係をより強化する。 ・生徒の可能性を伸ばし、主体性と協調性を持った生徒の育成。	C	身だしなみは多くの生徒ができていたが、一部の生徒については指導しきれなかった。遅刻欠席を特定の生徒が繰り返しており、特に3学期に増加した。しかし主体性を持って行動できる生徒が多く、来年度に繋げたい。	生徒との繋がりをもつために、対話の機会などを増やす。また、アンケート結果などを活用した指導を展開する。	遅刻指導などにおいて、一人ひとりの生徒に応じた、きめ細やかな指導が成果を上げている。これまで以上に地域や家庭との連携を深め、生徒の実態に即した指導を期待する。
第2学年	規範意識の向上 進路を見据えた学習	・常に身だしなみを意識する姿勢を持たせる。時間を守る指導を徹底し、遅刻を減らす。(平成28年度第1学年比10%減) ・授業・BUTを大切に、進路補習等に積極的に参加させる。	C			
第3学年	生徒の進路希望の実現を図る	・進路選択の進路説明会や進路補習等の充実を図る。(進路行事への参加率を昨年度より10%増やし、面接指導を実施する。) ・爽やかな挨拶や美しい言葉遣い等、社会人基礎力を身に付けさせる。	A	進路行事へ積極的な参加の呼びかけや個人の努力によって、参加率は90%を超え、昨年度比で50%以上の増となった。	日々の生活指導の充実と集団の中での、個人としての自覚をもたせる。	
総合	教育活動全体の充実	・保護者アンケートにおいて「子どもを二階堂高校に入学させてよかったと思う」のGPA3.6以上。	B			GPA3.5で、過去最高の昨年度とほぼ同じ。

※ 自己評価結果について … A：十分である(よくできた) B：ほぼ十分である(ほぼできた) C：あまり十分でない(あまりできなかった) D：改善を要する(できなかった)